



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

2026 年 9 月 28 日

体験支援 現場レポート

当財団では 2025 年 9 月から、埼玉県下の生活にお困りの子育て世帯を対象にした「体験の機会の場の提供」を開始いたしました。周りの環境によって子どもが得られる体験に格差が生じる体験格差。学校外での体験をほとんどできていない子どもも存在し、体験の有無が、子ども達の将来に私たちが想像する以上に深刻な影響を与えているのかもしれません。日常とは違う体験が、子ども達に自信や可能性を感じる機会となり、様々な体験活動を通して、生きていく上で重要な内面的な能力を育むことができるきっかけになるような、子ども達がワクワクするような体験提供を支援してまいります。





公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

三富今昔村で「火おこし」と「環境」を体験しました

2026 年 9 月 26 日 (土)、三富今昔村で体験活動を行いました。



今回は、鶴ヶ島の子ども食堂と新座のフードパントリーから、子ども・保護者・引率者を合わせて 24 名が参加しました。当日はあいにくの雨となったため、予定していた「森の生き物探検」を「火おこし体験」に変更しました。

薪割りから始まる「火おこし体験」

まずは薪割りに挑戦。薪を割った後、ファイヤースターターを使って火をおこし、薪をくべながら BBQ 用の窯を準備しました。



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団



普段の生活ではなかなか経験することのできない火おこしに、子どもたちは興味津々。

自分で火をつけることができると、嬉しそうな表情を見せていました。火をおこした後

は、埼玉県産の豚肉や、三富今昔村のオーガニックファームで収穫された野菜、施設で

焼いたパンなどをみんなで味わいました。三富今昔村で飼育されているニワトリの卵を

使ったプリンもいただき、最後は大きなマシュマロを火であぶり、ビスケットではさんで

食べる「スモア」も楽しみました。





公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

リサイクル工場を見学し、環境について学ぶ

午後は、石坂産業株式会社様のリサイクル工場を見学しました。



ごみの分別や、廃棄物を資源として循環させる仕組みについて学び、普段何気なく捨てているものについて考える機会となりました。「ゴミはゴミではない。分ければ資源、混ぜればゴミ」という言葉が印象に残ったという参加者も。「できることからリサイクルをしたい」「再利用できるものをできるだけ使いたい」「自分の生活をもう一度見直したい」など、体験を通じて日々の暮らしを見つめ直すきっかけになったという声も寄せられました。



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団



子どもたちの新しい一面に出会う

保護者からは、「自分から『やりたい!』と言えていた」「他の参加者と普段よりコミュニケーションをとっていた」「自分より小さな子どもたちにも気を配れるようになっていた」

など、普段とは違う子どもたちの姿や成長を感じたという声がありました。また、「行きたくない」と話していた子どもが、実際に参加してみるととても楽しんでいったというエピソードも。今回の体験を通して、子どもたちは「やってみる」ことの楽しさを味わい、保護者の皆さまにとっても、お子さまの新しい一面に気づく機会となったようです。



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団



雨の日だからこそ生まれた体験

予定していた内容は変更となりましたが、薪を割り、火をおこし、自分たちで食事を楽しみ、環境について学ぶ——。10時から15時までの5時間、親子で一緒に体験し、学び、楽しむ時間となりました。

今回の送迎では、アサヒロジスティクス株式会社様にバス2台・ドライバー4名体制でご協力いただき、安全に送迎していただきました。ご協力いただいた三富今昔村の皆さま、石坂産業株式会社の皆さま、アサヒロジスティクス株式会社の皆さま、そして参加いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。